

## 令和 3 年 11 月 24 日（水） 第 1 回編集委員会での主なご意見

**① 全体**

- ・委員だけで県史はできない。強力な事務局スタッフを整えてもらいたい。
- ・資料編は特に分厚くなる傾向があるが、1500 頁を超えると本を作るのがしんどくなる。1 冊 1000 頁位までを目安にしたい。
- ・これまで他の自治体史に関わる中で、委員間の壁を高くし過ぎないことが大事だと思う。県内の人材の活用と県外委員との連携も大事にしたい。
- ・県内外の委員の連携のためにも、デジタルツールの設置を強く願いたい。
- ・専門調査委員や執筆委員も専門部会に入れて、一緒に協議していきたい。
- ・本分がある学芸員の参加は難しい。編さん委員会で市町村にも方向性を示して、ハードルをクリアできるような方法をお願いしたい。

**② 古代中世部会**

- ・文献資料が始まるころから、古代中世部会が担当するつもり。
- ・どのようなところに重きをもって通史編を作るのかについては、考古部会や文化財部会にご指導いただきたい。
- ・長宗我部地検帳のような膨大な資料をどう扱うかが課題で、別編が可能なら、その方が適しているのではないかと考えている。

**③ 近世部会**

- ・近世資料は量も多いが、1 点ごとの頁数も多い。4 冊の資料編に入れ込むのが難しい貴重な日記類などは、別の形の資料集として刊行できればよい。
- ・県民の関心を考えても、幕末維新时期は大きい。資料編の 1 冊、本編 2 冊目の半分位は幕末維新时期に充てることになるのではないか。
- ・高知県の場合、幕末維新时期が廃藩置県で切れるわけではなく、その後につながっていく側面が大きいので、近世と近代を跨がる形で幕末維新时期を調査するようなサブグループができれば理想的。

**④ 近代部会**

- ・高知県でもだいぶ失っていると聞くが、豊田市史でも 220 カ所位、区有文書の調査に入った。実際に使うのは僅かでも、見ておくことが大切だ。
- ・資料編 3 冊のうち 1 冊を自由民権編にしたい。
- ・自由民権編を書く際の背景は幕末維新まで遡るので、近世と近代が跨がって議論するための作業部会が当然必要。
- ・戦災などで失われた行政文書の復元が必要で、膨大な作業になる。

**⑤ 現代部会**

- ・資料編 3 冊のうち 2 冊は大まかに「戦後前期」と「戦後後期」、活用範囲が広い形で資料収集に当たりたい。
- ・3 冊目の「特論」は、高知県の現代、戦後の特徴などについて、本編と結びつくような内容で構成したい。
- ・委員の選定に当たって、政治・行政・産業・経済は必要として、それと別に「暮らし」という分野を置いて、「暮らし」を軸に、各分野が連携できる

ような編さんを心がけたい。

- ・今まで現代の文化を扱う県史はあまりなかったと思うが、現代では文化的表現が重要な意味を持っているので、何らかの形でカバーしたい。
- ・現代編の暮らしに関わるところで、自然や環境の問題も検討したい。

## ⑥ 考古部会

- ・高知県文化財地図情報システムによると、近世以前の遺跡は2559カ所。
- ・文献資料が登場する以前の通史については、古代中世部会と相談したい。
- ・特に古代中世は遺跡と文献を合わせて初めて歴史となるのが常識で、考古の本編にも文献の本編にも目に見える具体的な場所やモノから県民にも分かりやすい材料を提供するのが考古資料編の役割。
- ・資料編は時代順の遺跡毎、本編の前提となるものとしたいが、3冊に収まるのか、3冊の出版物以外で県民に提供する方法があるのかどうかについても議論いただきたい。
- ・文献の調査よりも肉体労働的なことが多く、特殊技能も必要なので、県立埋蔵文化財センターに調査を委託する体制にはできないか。

## ⑦ 民俗部会

- ・民俗写真を有効に使って、県民に興味を持って読んでいただける民俗編を目指したい。
- ・前県史は、本編の執筆者が長期療養という不測の事態もあって、重要な分野が欠けている。今回はそれを補って総合的なものとしたい。
- ・資料編3冊のうち2冊は「言葉や口承」と「民具や生活道具などの物」。
- ・もう1冊として、民俗は直近の過去を対象とすることが多いが、民俗の時間軸を捉える近世後期から明治期にかけての史料群をまとめておきたい。
- ・「祭礼」は本編の中で扱いたい、文化財部会とも相談したい。
- ・高知県をフィールドに調査・研究している人はたくさんいるが、高齢化している。そういう人の力を借りるためにも、基礎的な資料を早く整えて、早い段階で本編の執筆にも取りかかりたい。

## ⑧ 文化財部会

- ・高知県には国の登録有形文化財が270件ほどあり、これらを網羅すると、全国にないユニークな建造物の資料編ができると思う。
- ・当時の建造物の資料は関東大震災で燃えているいるが、手書きで写した資料が残っていることがある。こまめに回って調査する必要がある。
- ・財の中でも重要なものをどう選ぶかという視点と、この機会にやりきってしまいたいという気持ちの兼ね合いを考えながら。

## ⑨ 自然部会

- ・植物・環境・防災に至るまで大変範囲が広く、資料の収集に時間を要する。
- ・千葉県では、かなり分厚い本編7冊に写真集や別編もあり、高知県も同様に進めるなら、これだけのボリューム感になる。
- ・県史全体のイメージや冊数の制限もあるので、自然部会が始まる令和8年度までの準備段階で、作業部会も含めて慎重に議論を進めたい。

高知県史の編さん計画案（本編10巻+資料編22巻+別編6巻）

資料 2

専門部会		第1期					第2期					第3期					第4期					R23/R24										
		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22											
古代中世	旧石器時代 ～ 長宗我部氏 退放 (1600年)	資料調査					資料編①					資料編②					資料編③					本編①										
							資料編①					資料編②					資料編③					資料編④					本編①					本編②
近世	山内氏入国 (1600年) ～ 廃藩置県 (1871)	資料調査					資料編①					資料編②					資料編③					本編①										
							資料編①					資料編②					資料編③					本編①					本編②					
近代	高知県設置 (1871年) ～ 終戦 (1945年)	資料調査					資料編①					資料編②					資料編③					本編①										
							資料編①					資料編②					資料編③					本編①					本編②					
現代	戦後 (1945年) ～	資料調査					資料編①					資料編②					資料編③					本編										
							資料編①					資料編②					資料編③					本編										
考古		資料調査					資料編①					資料編②					資料編③					本編										
							資料編①					資料編②					資料編③					本編										
民俗		資料調査					資料編①					資料編②					本編①					本編②					資料編③					
							資料編①					資料編②					本編①					本編②					資料編③					
文化財		資料調査					資料編①					資料編②					資料編③															
							資料編①					資料編②					資料編③															
自然							本編																									
別編		「新たな高知県史へのいざない（仮称）」資料調査の成果を少なくとも1期に1巻ずつ取りまとめて、県民の皆さまにお示しする																				絵図地図										
																						年表索引										
本編		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	3	2	0										
資料編		0	0	0	0	0	1	2	2	2	3	2	2	2	1	3	1	0	0	0	1	0										
別編		0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2										

資料所在基礎調査

# 近世・近代・民俗部会の委員候補者名簿

資料 3

部会	主な分野	所属	氏名
近世	農村・経済・流通	岡山大学	東野 将伸
	漁村・漁業	滋賀県立大学	東 幸代
	文化・教育・宗教	愛媛大学	胡 光
	都市	高知大学	望月 良親
	幕末・維新	熊本大学	今村 直樹
	山村・林業	未 定	
近代	政治	名古屋大学	川田 稔
	経済	京都大学	小堀 聡
	文化・教育	京都大学	谷川 穰
	行政	大阪大学	飯塚 一幸
	維新	広島大学	奈良 勝司
		未 定	
民俗	漁業・災害	東北大学	川島 秀一
	市・交易	神奈川大学	山本 志乃
	民俗語彙・民話	高知県立大学	橋尾 直和
	観光と近代化	高知県立大学	飯高 伸五
	信仰・行事	高知県立歴史民俗資料館	梅野 光興
	民具・民俗写真	高知県立歴史民俗資料館	中村 淳子

## 高知県史編さん基本方針

- 第4 構成：「古代・中世」「近世」「近代」「現代」「考古」「民俗」「文化財」「自然」（各専門部会を構成）
- 第5 期間：20年間（令和3～22年度）
- 第6 計画：概ね5年ずつ4期に分けて進捗を管理

長期事業のため、各期ごとにしっかりと進捗管理を実施

## 『高知県史』第1期計画（計画期間：R4～7）

- 計画の構成
  - 各専門部会及び事務局ごとに作成（各専門部会計画及び事務局計画の集合体）
- 計画の内容
  - ・資料調査の概要
    - （情報収集(包括的な把握)、調査対象資料の選定、調査方法、整理方法など）
  - ・編集の概要
    - （各巻の項目、掲載資料の選定方法(分担・翻刻)、出版方法など）
  - ・編さんの成果の提示
    - （活動内容や歴史資料を紹介した刊行物、講座・成果報告会など）

## 「近世部会」第1期計画

- (1) 部会の運営
- (2) 史料調査（情報収集、調査、整理等）
- (3) 編集（項目、資料選定・掲載方法等）
- (4) 第1期の成果の提示
  - ※ その他必要事項

## 「近代部会」第1期計画

- (1) 部会の運営
- (2) 史料調査（情報収集、調査、整理等）
- (3) 編集（項目、資料選定・掲載方法等）
- (4) 第1期の成果の提示
  - ※ その他必要事項

## 「民俗部会」第1期計画

- (1) 部会の運営
- (2) 史料調査（情報収集、調査、整理等）
- (3) 編集（項目、資料選定・掲載方法等）
- (4) 第1期の成果の提示
  - ※ その他必要事項

## 事務局第1期計画

各専門部会の協力を得ながら、事務局が主体となって実施する事務事業

- (1) 広報啓発
  - 文化広報誌「とさぶし」への掲載
  - 成果報告会、施設との連携展示……
- (2) 人材育成
  - 史料調査能力養成講座(仮称)
  - 県史の史料調査に対応できる、入門的な人材養成
- (3) 編さん体制の充実

R4.4 各専門部会設置

↓  
専門部会で検討  
編集委員会で検討

↓  
R4.6 第1期計画決定

他部会の計画は  
R5以降の部会設置時  
に検討・作成

R4.3 編集委員会で報告

# 『高知県史』編さん事業に係る令和4年度予算の概要 〔全体額 43,292 千円〕

## 1 編さん体制の構築 17,993千円

- ・編さん委員会、編集委員会の開催
- ・会計年度任用職員（近世・近代・民俗の3名分）の人件費
- ・県史編さん室の賃借料（高知県文教会館2階）

## 2 歴史資料調査 22,524千円

### ①近世部会・近代部会の調査等に要する経費

- ・専門部会の開催（対面協議3回＋オンライン協議3回）
- ・県内史料調査（3泊4日×8委員×3回）  
※現地での調査協力員の謝礼（2名分）を含む
- ・県外史料調査（3泊4日×2委員×2回）  
※調査を担当する委員及び調査先等は各部会で協議
- ・調査補助のアルバイト代：1部会当たり 時給900円×1000時間  
※資料整理・目録作成・翻刻等（当初は県外大学への依頼を想定）

### ②民俗部会の調査等に要する経費

- ・専門部会の開催（対面協議3回＋オンライン協議3回）
- ・県内民俗調査（3泊4日×8委員×3回）  
※現地での調査協力員の謝礼（4名分）を含む
- ・調査補助のアルバイト代：時給900円×1000時間＋日給6千円×10日分  
※資料整理・フィールドワークへの同行等

### ③その他の5部会の調査等に要する経費

- ・県内調査（5部会で8回分）  
※どの部会で使用するかは各部会と事務局との調整による

### ④県史委員等への報償費

- ・監修者(月額)：5万円
- ・設置済専門部会(月額)：部会長4万円、副部会長3.5万円、委員2.5万円
- ・未設置専門部会：活動1回あたり日額9,000円

## 3 人材育成・広報啓発 2,775千円

- ・県内の歴史系博物館等と連携し、資料調査能力養成講座（仮称）を実施
- ・県の文化広報誌「とさぶし」を活用し、編さん状況や本県歴史の魅力を発信
- ・学校や団体等の要請に応じ、県史委員等による出前講座を実施

# 令和4年度 県史編さん室の体制について（文化生活スポーツ部 組織改正等の概要）

## 文化振興と文化財保護の連携強化

・貴重な文化財の次世代への確実な継承に向け、文化財の保存と活用に関する取組を文化芸術や地域振興等の取組と一体的に執行できるよう、**文化財の保護に関する業務を所管する「文化財課」を教育委員会から知事部局（文化生活スポーツ部）に移管**

▶ 文化生活スポーツ部に「**歴史文化財課**」を設置

## 県史編さん事業の推進

・新たに3つの専門部会（近世・近代・民俗）を設置し、本県歴史研究の更なる進展に向けた取組を強化

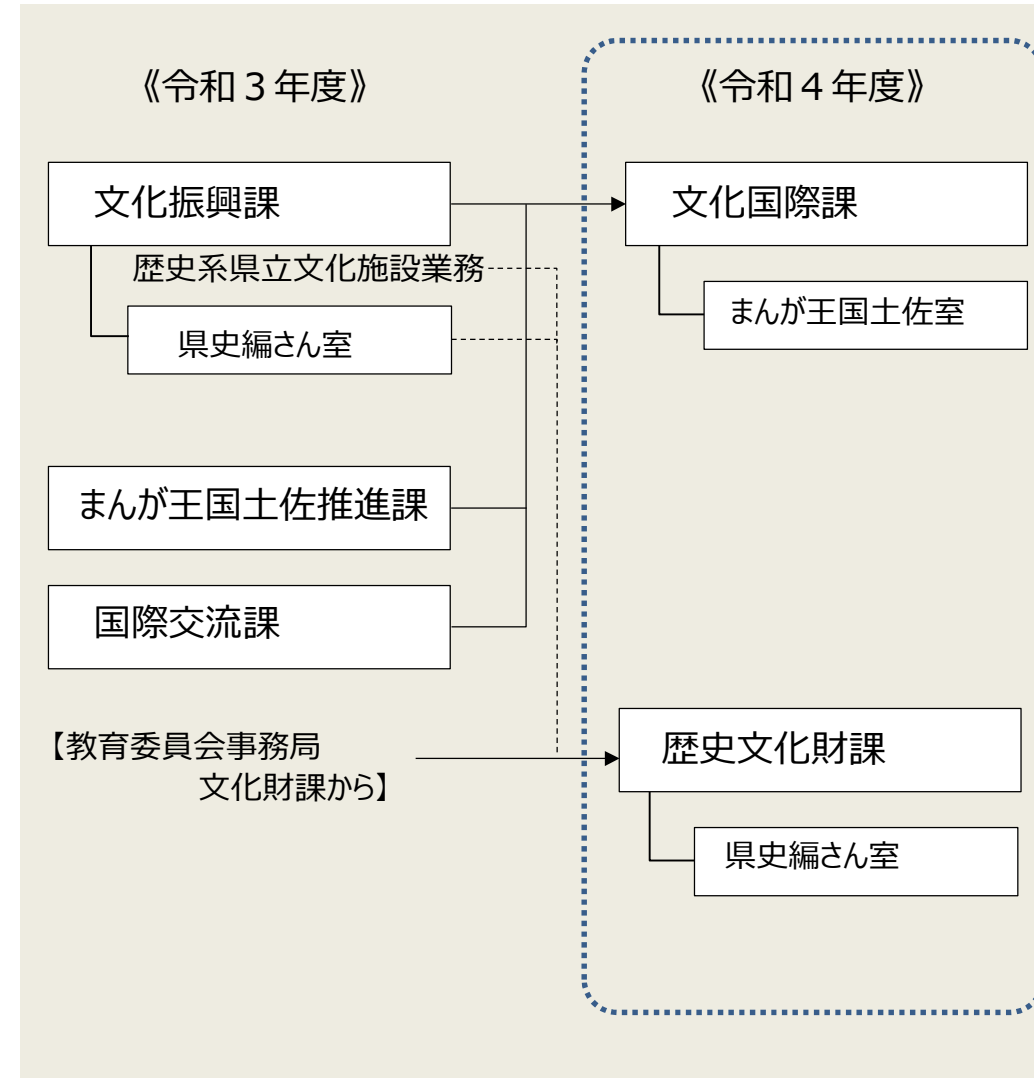
▶ 歴史文化財課「**県史編さん室**」の体制を強化

### R3：文化振興課

課長  
企画監兼県史編さん室長  
チーフ(事務)  
担当A(事務)  
会計年度任用職員(事務)

### R4：歴史文化財課

課長  
企画監兼県史編さん室長  
チーフ(事務)  
担当A(事務)  
担当B(専門・近世)  
担当C(専門・近代)  
担当D(専門・民俗)  
会計年度任用職員E(近世)  
会計年度任用職員F(近代)  
会計年度任用職員G(民俗)



### ※ 県史編さん室の移転

現在の県庁本庁舎5階から移転されます (R4.3.23～)

〒780-0870 高知県高知市本町4-1-48-203 (代表:088-821-7950)